

令和2年度 鳥取大学入学者選抜試験問題

(推薦入試Ⅰ)

小 論 文

(地域学部 地域学科 地域創造コース)

(注 意)

1. 問題冊子は、指示があるまで開かないこと。
2. 問題は4ページ、解答用紙は2枚、下書用紙は2枚である。
指示があってから確認すること。
3. 解答は解答用紙(横書き)に記入すること。
4. 下書、メモ等を試みる場合は、下書用紙又は問題冊子の余白を利用してよい。
5. 解答用紙を持ち帰ってはならないが、問題冊子及び下書用紙は必ず持ち帰ること。

【問題】

下に掲げる資料①は、人口減少という新たな局面に入った日本社会の今後の歩み方について、劇作家の視点から書かれた書籍『下り坂をそろそろと下る』の一部、資料②は、日本政府が新たな経済戦略の一環として、文化・芸術への投資を進めるために策定した『文化経済戦略』の一部である。これら2つの資料を読んで、あとの問いに答えなさい。

<資料①>

この部分につきましては、著作権の関係上、HPでは公表しておりません。

この部分につきましては、著作権の関係上、HPでは公表しておりません。

出典：平田オリザ『下り坂をそろそろと下る』講談社、2016、pp.6-10
縦書きの原典を横書きに書き換え、一部漢数字をアラビア数字に修正している。
下線は出題のために加えたもの。

<資料②>

この部分につきましては、著作権の関係上、HPでは公表しておりません。

この部分につきましては、著作権の関係上、HPでは公表しておりません。

出典：内閣官房・文化庁『文化経済戦略』、2017、pp.3-4

下線は出題のために加えたもの。

原典にある各種データの出典を示す注は省略した。

【問1】

資料①で述べられている筆者の主張について、300字以内で要約しなさい。

【問2】

「文化芸術資源を活かした我が国の経済社会の活性化」(資料②下線部)に向けて、あなたのよく知る地域ではどのような「つまらなくない街」(資料①下線部)を目指すべきか、800字以内で考えを述べなさい。